



景気の見方

マネジメント学部マネジメント学科助教授 山澤成康

経済分析のテーマの一つに、景気分析がある。景気に明確な定義があるわけではないが、一般的には生産活動が活発で失業者が少ない場合を好景気、反対の場合を不景気と考える。

学生に景気が良いかどうかを聞いても答えはまちまちだろう。父親の会社が儲かっていて、こづかいが増えている学生は景気が良いと思うだろうし、就職先を探してもなかなか見つからない学生にとっては、底なしの不景気だと感じるだろう。

自分の周りの人に意見を聞いても一部のことしかわからない。日本全体の景気がよいか悪いかを調べるには統計を見るのが正確だ。代表的なものは①日銀短観の業況判断D I（ディフュージョン・インデックス）②内閣府の景気動向指数——の2つである。日銀短観は正式には日本銀行の短期経済観測と呼ばれ、この中の業況判断D Iは、経営者に景気がよいかどうかをアンケート調査したものだ。一方、内閣府の発表する景気動向指数は景気に敏感な約10個の統計を合成して一つの指標を作り、景気の良し悪しを判断する。短観は3ヵ月ごとに、景気動向指数は毎月発表されるので、新聞やニュースを見ていれば現在の景気がどのような状態にあるのかわかる。ニュースを見逃した人は、図書館へ行けば過去の新聞を見ることができる。

ただ、やっかいなのは2つの統計が同じ答えを出してくれないことだ。時には正反対に動くこともある。さらに、ほかの統計の動きも考慮する必要がある。

さまざまな統計から景気の現状を探り当てる——これは推理小説並みに面白い作業である。推理は論理的でなければならない。正しい結論を導き出すためには経済統計の知識が不可欠だ。経済統計にはさまざまなクセがあり、それ

を理解して解釈する必要がある。そこで、経済統計の解説書が必要となる。私が携わったものでは、『経済予測入門』（日本経済研究センター編、2000年）という本がある。これは経済予測の方法を解説したもののだが、その元になる経済統計についても詳しく解説してある。私が中心となって研究員4人でまとめたものだ。

景気動向を手っ取り早く一つの統計で判断するとしたら、国内総生産（GDP）をみるのがよいだろう。GDPは日本全体の経済活動の状況を表したもので、GDPの推移を見れば、景気動向を大まかにつかむことができる。ただ、GDPは日銀短観と同じく3ヵ月に1回しか発表されない。日々刻々動く経済活動を観測するのに3ヵ月に1回では物足りない。

そこで私は毎月のGDPを計算する仕組みを考えた。「月次（げつじ）GDP」というもので、特許出願中（平11-121302）である。GDPはさまざまな基礎統計から作られているが、その中には月次統計も多い。それらを使って、月ごとのGDPを推計して作成したものである。

月次GDPを使って、景気動向を把握する方法も考えた。潜在GDPと現実のGDPの差であるGDPギャップという指標が景気循環とほぼ同じ動きをしていることをつきとめた。作成法やこれまでの景気循環との比較などについては「景気指標としての月次GDP」という論文にまとめた。この論文は『景気循環と景気予測』（浅子和美・福田慎一編、2003年、東京大学出版会）に収められている。

『経済予測入門』 日本経済新聞社、2000

所 在：2F和書

請求記号：331.19/N77

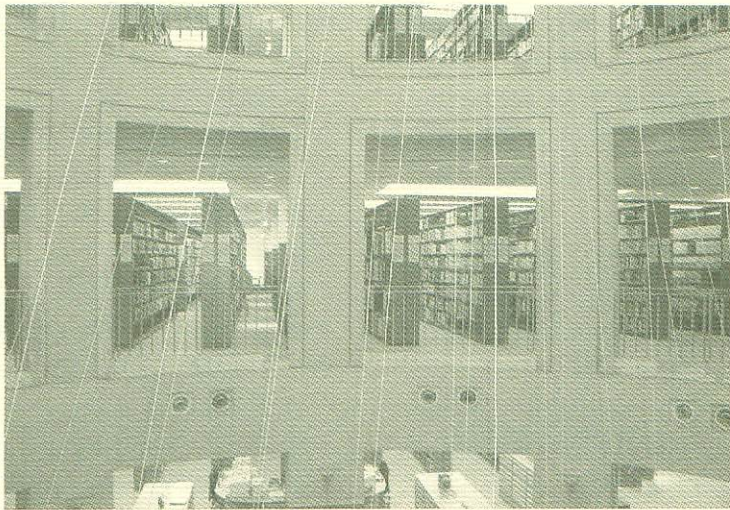
資料番号：1112479025

[kæ̃nəpi]

キャノピー

跡見学園女子大学図書館報 2004年3月15日No.35

発行：跡見学園女子大学図書館 〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL:048-478-3864 FAX:048-478-3746



●●●● 卒業生へのお知らせ ●●●●

貸出やAVコーナーの利用など、学生時代とほぼ変わらないサービスが、卒業後も図書館で受けられます。みなさんのご来館をお待ちしていますので、是非ご利用ください。なお、卒業後、図書館を利用するには登録が必要になります。登録された方には「LIBRARY CARD」を発行します。その場ですぐに発行できますので、卒業後、図書館を利用する際にお申し出ください。

CONTENTS

| | | |
|----------------------------------|------|-----|
| 景気の見方 | 山澤成康 | P 2 |
| あらすじ本／解説本／概説本 | 佐藤富雄 | P 3 |
| 体験過程としての読書と〈わたし〉の変容 | 古池若葉 | P 4 |
| 図書館からのお知らせ データベースを利用しましょう！ | | P 5 |
| 利用者の声 | | P 6 |
| AV視聴ランキング | | P 8 |